

平成28年度

外部評価実施結果に対する  
市の方針及び対応報告書

刈谷市  
平成29年1月



# 報 告

刈谷市行政評価委員会委員長 様

平成28年度外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について報告します。

平成29年1月24日

刈谷市長 竹 中 良 則

# 目 次

1	本報告書について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	外部評価項目について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3	外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について・・・・・・・・	1
	(No. 1) 基本施策「次世代育成・子育て支援」	
	施策の内容（小施策）「地域における子育て支援」・・・・・・・・	2
	(No. 2) 基本施策「次世代育成・子育て支援」・・・・・・・・	4

## 1 本報告書について

本報告書は、平成28年9月23日付けで刈谷市行政評価委員会より刈谷市長あてに提出された「外部評価実施結果報告書」を受け、これに対する市の方針及び対応を掲載しています。

なお、今年度の外部評価は、第7次刈谷市総合計画に位置付けられた全30の基本施策のうち「次世代育成・子育て支援」を選定し、平成28年8月5日に実施されました。

## 2 外部評価項目について

基本施策	施策の内容（小施策）	とりまとめ課	関係課
次世代育成・子育て支援	地域における子育て支援	子育て支援課	子ども課
施策責任者	子どもが健やかに育つ環境づくり	子育て支援課	
次世代育成部長	保育・幼児教育の充実	子ども課	
とりまとめ課	幼稚園・保育園の整備・充実	子ども課	財務課
子育て支援課	子どもの居場所づくり	子育て支援課	生涯学習課

## 3 外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について

行政評価委員の皆様からいただいた貴重なご意見に対しまして、市の考え方として今後どのように対応させていただくのかという市の方針を示し、すぐに改善できるもの、予算措置が必要なものなど、対応をすでに実施したものについてはその内容を掲載しました。

今年度外部評価を実施した各レベルの成果の関連性を見るために重点的に評価した小施策「地域における子育て支援」及び基本施策「次世代育成・子育て支援」全体について、行政評価委員の意見及び委員の意見に対する市の考え方を、次ページより掲載しています。

No.	1	施策責任者	次世代育成部長
基本施策	次世代育成・子育て支援	小施策 とりまとめ課	子育て支援課
施策の内容 (小施策)	地域における子育て支援	関係課	子ども課
	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方	
①	中央子育て支援センターの現地調査では、母親同士で交流していないことが目に付いたが、母親同士の繋がりを作っていくための仕掛けが必要である。一つの手として、既存の子育てサークルのような団体と上手く連携していく事が挙げられる。	子育て支援センターでは、各種さまざまな講座を開催しており、対象者を子どもの年齢や生まれ月で区切ることで子育ての状況が似通った保護者が交流する環境をつくっています。特に連続講座では、複数回にわたり顔を合わせることで親同士の交流が生まれやすいことから、終了後の子育てサークルの設立を促しているところであり、今後も親同士の交流が生まれやすい講座のあり方や子育てサークルとの連携等について研究を進めたいと思います。	
②	ファミリー・サポート・センター会員数が近隣市に比べてかなり数値が高いのは素晴らしいが、依頼も援助もする両方会員は全体会員の1割にも満たない。このシステムの有難さを実感した依頼会員が今後の援助会員となるような仕掛けが必要である。	ファミリー・サポート・センターを持続可能な活動とするためには、援助の担い手を継続的に確保する仕組みが必要です。子どもの成長とともに依頼する側から援助する側へと変わっていくことが、地域住民の助け合いの活動趣旨にも沿っているところではありますが、依頼会員には仕事を持つ人が多く、すぐに援助する側へと変わることが難しいのが現状です。長期的な視点から、いつかは援助する側になっていただくことを目的に、会報等により今後も機会を見つけ呼びかけていきたいと考えています。	
③	ファミリー・サポート・センター事業など子育て施策が充実していると感じている。女性の社会参画にも影響して大変素晴らしいものである。今後は、ファミリー・サポート・センターの内容をさらに吟味して、支援を必要とする母子に幅広く有効的に使ってもらうよう工夫を重ねてほしい。また、このシステムを横展開して、介護事業でも同じような支援ができることを期待している。	ファミリー・サポート・センターが、今以上に多くの方に利用していただけるよう、会員の増加や、使いやすい仕組みづくりに取り組んでいきます。 また、住民主体によるサービスの介護事業への展開については、関係部署が高齢者を地域で支える仕組みを構築する際には協力してまいります。	
④	子育て支援センターと保健センターが一体となって連携している体制は素晴らしい。施策の目標値としても他市に比べてかなりの人が来ており素晴らしいが、今後はさらに本当に支援を受けるべき人が来れるような仕組みを工夫していくと、市民も満足するし、職員も納得して仕事ができると思う。	子育て支援拠点の魅力を向上させることが、多くの人の来所に繋がると考えることから、今後も支援拠点で開催する講座や、相談体制の充実に取り組んでいきます。 また、支援拠点への来所を待つだけでなく、子育てコンシェルジュや保健センター等と連携し、支援の必要な人へこちらからアプローチすることで、来所に繋がるよう働きかけてまいります。	

	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方
⑤	たくさんの子育て支援に関するサービスを提供しているのに、市民にアピールして広報活動を行ってほしいとよい。	市のホームページをはじめ、子育てアプリや子育てガイドブックといった情報発信ツールを活用し、より多くの市民に子育て支援サービスを知っていただけるよう、広報活動を行ってまいります。
⑥	虐待、ネグレクト、貧困などの家庭は子育て支援の情報を知らない傾向が多く、また知ったとしても支援センターに来る事は考えにくい。「待ち」の姿勢だけでなく、「攻め」の姿勢も取れるとよい。	虐待等、見守りが必要な家庭は、関係機関が連携して支援を行っており、支援策のひとつとして、その家庭に合った子育て支援サービスの利用を呼びかけています。 引き続き、子どもの年齢等状況に応じて子育て支援センターの各種講座を紹介するなど、積極的に呼びかけを行ってまいります。
⑦	ファミリー・サポート・センターの会員は健康センターでの健診時に勧誘しているとのことだったが、その他の色々なサービスもせっかくなので案内できるとよい。また、自分から積極的に情報を収集するような人ばかりではないので、そのあたりも工夫してほしいとよい。	子育てアプリの登録等、健診時に案内を行った実績もあり、今後も必要に応じて子育て支援サービスの案内等を行っていきます。 また、機会を捉えたこまめかつ、多様な手段による情報発信を心がけ、情報収集に能動的でない人に対しても周知できるよう工夫してまいります。
⑧	子育てコンシェルジュ事業は、刈谷市の特徴として兼任が多いとのことだが、従来の仕事に加えてコンシェルジュの仕事をしているので、プラスアルファで担当に大きな負担がかからないよう持続可能な体制であることが望ましい。	兼任子育てコンシェルジュは、保育園や幼稚園の園長が兼任している例が多く、新たな業務としては子育て施策の知識習得や、コンシェルジュ同士のネットワークを作ることなどが挙げられます。 これらをふまえて、兼任子育てコンシェルジュの意見を聞きながら、過度の負担がかからないよう事業を実施してまいります。
⑨	「子どもを生き育てやすいと思う市民の割合」や「幼稚園や保育園で子どもが多様な経験をし、友達とふれあい楽しく学んでいると思う保護者の割合」に適応する客観的な指標を今後考えてもらいたい。	指標については、施策との関係性や進捗状況がより把握しやすい客観的なものとなるよう、検討してまいります。

No.	2	施策責任者	次世代育成部長
基本施策	次世代育成・子育て支援	施策とりまとめ課	子育て支援課
小施策とりまとめ課	子育て支援課、子ども課	関係課	財務課、生涯学習課
	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方	
①	幼稚園、保育園の先生が両方の資格を持っていることや一緒に研修を行う体制は素晴らしい。公立保育園に入れず認可外保育園に入っても、親としては遜色ないサービスを受けたいので、将来的には認可外の先生も同じ研修ができる仕組みがあるとよい。研修の費用負担は認可外保育園が出すことになるかもしれないが、そういう取り組みをしてもらいたい。	認可外保育所の保育の質の向上のために運営費などの財政支援を行うほか、保育内容等については、愛知県が指導監督を行っており、県が主催等しています保育士に対する各種研修への参加が可能ですので、市としても開催案内の周知を行っていきたいと考えています。	
②	全体を通して次世代育成・子育て支援は、他市と比較しても刈谷市は非常に充実した施策展開をしている。ただ、あえて言えば、行政主体の税金を投入している施策は非常に充実しているが、自治会との連携や老人ホームの訪問とか部分的にはあるものの、地域で子どもを育てるといったような部分は弱いように感じる。事業の立ち上げの時期は行政主導で足りない点を地域やNPOが補完してもらう形が良いと思うが、将来的には地域やNPO主導で足りない点を行政が補完するようになっていかなければならない。	育児ママ訪問サポート事業においては、県内で唯一ボランティア訪問員が担い手となる形で実施しているほか、ファミリー・サポート・センターの会員数や活動件数の充実にも見られるように、本市では多くの地域住民が子育て支援に関わっているところであります。 これらの事業は、市と地域住民が補完しあうことで成り立っており、今後もより多くの地域住民やNPOと連携しながら施策の推進を図ってまいります。	
③	市民協働についての主管課は市民協働課であっても、市民協働課だけに任せるのではなく、子育て支援は新しい分野なので子育て支援課が積極的に市民と協働して欲しい。最初は行政主体で仕方がないが、今後の人口減少社会などを考えれば全部行政で担うことは不可能なので、行政、NPO、企業はそれぞれの分野を担うのか、また、どうやって連携していくかを全体で力を合わせての施策を展開して欲しい。	育児ママ訪問サポート事業やファミリー・サポート・センター事業では、行政が仕組みをつくり、実際の活動は市民が参画する形で実施しているところです。 また、南部・北部の子育て支援センターの運営においても、NPO法人に委託しており、市が直接運営する中央子育て支援センターと連携することで、効果的、効率的な運営を心がけています。 今後は、このような取り組みを広げていくことで、より一層、市民と協働しながら子育て支援を推進していきたいと考えています。	

	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方
④	<p>主権者である市民が行政サービスを受けるだけの単なるお客さんになってしまっ ては、本来の住民自治を達成できない。 お客さんとしての満足度を上げるコストは 際限がない。ボランティアの先輩ママがや っている育児ママ訪問サポート事業は、 行政にやってもらうのではなく、市民が自 分たちで地域の人に声をかけていくといっ た、本来あるべき姿である。どのようにすれ ばこのようなボランティアを増やしていける か、ここに知恵を出すのが今まさに行政に 求められている。</p>	<p>育児ママ訪問サポート事業は、事業開始から日が浅 いこともありますので、今後は、事業の認知度を高めつ つ、ボランティア訪問員の養成にも取り組んでいきま す。</p> <p>また、同事業以外においても市民との協働について 検討を進めてまいります。</p>
⑤	<p>今後、自治体は総務省の統一的な基 準のもと、企業と同等な財務諸表を作成 していくことになる。施設ごとのコストをきち んと出して、数値としての持続可能な財 政運営をしっかりと市民に示して、理解し てもらふ必要がある。</p>	<p>これまで、限られたコストの中で適切な施設の維持 管理のための取り組みを行ってきています。</p> <p>現在、長期的な観点で、公共施設の維持管理や更 新に掛かる経費の縮減、財政負担の平準化など、公 共施設全体の維持管理の最適化に向けた取り組みを 推進するため、刈谷市公共施設等総合管理計画を策 定中です。</p> <p>この計画に基づき、持続可能な自治体経営の実現を 目指してまいります。</p>
⑥	<p>国の借金を減らすことを最重要課題とし て安いコストでよいサービスを提供するよう 民営化を進めた小泉内閣の考え方もあり、人口減少を可能な限り食い止めること を最重要課題として少子化対策にコスト を投入する安倍内閣の考え方もある。重 要なのは、その時の国の考えに全て従っ ていくのではなく、刈谷市として子育て支 援をどう進めていくのかスタンスを確立し て施策を進めることにある。</p>	<p>本市における子育て支援の基本理念や方針は、市 民に広くアンケートを実施し、平成27年3月に策定した 刈谷市子ども・子育て支援事業計画にまとめており、こ の計画に沿った形で施策を進めていきます。</p> <p>また、この計画の策定、進捗管理は、外部有識者等 の委員による会議に諮っており、必要に応じて見直す ことで、本市の実態にあったものとしていきます。</p>
⑦	<p>これまでの幼稚園と保育園の整備状況 も、近隣市と比較した幼稚園と保育園の 数もバランスがよい印象である。また、地 域づくりの基礎であるチビッコ甲冑など の地域の人と関わるイベントは、改めて保 育園、幼稚園をベースにしていくことが求 められていると感じた。刈谷市は、3つ4つの 保育園、幼稚園が同じ小学校、中学校に 行くという1つの流れができている。保 育園、幼稚園での仲間づくりが基礎とな り、その中で培ったものが地域の愛着とな ってまちづくりにつながっていくと思うので こういった活動を発展させていけば素晴ら しいものになる。</p>	<p>本市は1小学校区に1公立幼稚園があり、幼児教育 の推進と生まれ育った地域での継続的な子育てに重 点をおいた施策をこれまでも実施しています。保育園 についてもそういった点に配慮して整備を進めてきた結 果、他市と比較してバランスの良い配置になっていると 考えています。</p> <p>地域とのつながりの中で育っていくことを大切に、こ れからも子育て支援施策を展開していきたいと考えて います。</p>

	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方
⑧	<p>本日視察したさくら保育園は、大変立派な保育園であったが、逆に入園できるかどうかで大きな違いになってしまうよう感じた。待機児童が数名出ており、入園希望者も増えてきているので、0になるようしっかりとした計画のもと事業を進めてもらいたい。</p>	<p>子ども・子育て支援事業計画に基づいて、定員の拡大を図っており、今後も早期の待機児童解消のため、スピード感を持って取り組んでまいります。</p>
⑨	<p>幼稚園の預かり保育も小学生の放課後の預かりもどちらもニーズが高いが、限られた人材、施設の中でやっていかないといけないため、工夫をしながら事業を進めてもらいたい。</p>	<p>幼稚園の預かり保育については、年々利用者も増加しており、平成16年度に試行的に東刈谷幼稚園1園でスタートして以来、実施園の拡大や時間延長を行うことで、市民のニーズに応じてきております。今後もニーズを的確に把握し、対応していきたいと考えています。</p> <p>放課後児童クラブについては、小学校の余裕教室の活用を図っているところであり、今後も同様の取り組みを継続していきます。また、放課後の小学校において地域住民の参画により様々な体験活動を行う放課後子ども教室との連携を促進することで、内容の充実にも取り組んでまいります。</p>
⑩	<p>幼稚園児の保育終了後に預かり保育を利用しやすくするなど、幼稚園と保育園の連携強化を図って保育園の待機児童を解消してほしい。</p>	<p>幼稚園の預かり保育については、実施園の拡大や時間延長を行ってきており、就労の状況によっては保育園だけではなく、幼稚園も選択が可能となることから、待機児童解消に対して一定の効果が出ているものと考えています。今後もニーズを的確に捉えた施策を展開していきたいと考えています。</p>